

ふるさと再発見 第79回

Re:discovery Omihachiman

文化財の保存修理 ③

旧伊庭家住宅

今回は市内に数あるヴォーリズ建築のひとつであり、また住友とも縁が深い旧伊庭家住宅を、建てられた当時の様子や保存修理、増改築の経緯を交えながら紹介したいと思います。

旧伊庭家住宅は住友第2代総理事・伊庭貞剛の四男である伊庭慎吉の住居として、大正2（1913）年に建てられました。ヴォーリズの設計により建てられた洋風住宅で、現在は市指定有形文化財（建造物）に指定されています。

伊庭慎吉はフランスに美術留学後、現在の八幡商業高校で美術教師として勤務したほか、沙貴神社の神主、安土村の村長などさまざまな要職を務めました。画家として活動を行っていました。



写真①南側外観

たこともあり、旧伊庭家住宅にはしばしば画家や文人、俳人などの文化人が訪れ、創作・憩いの場として使用されていました。建物や家具、調度品の意匠は細部にこだわりが見られ、ヴォー

リズ建築的な十字架や丸みのある優しい雰囲気、階段をはじめ、数寄屋造りを思わせる網代天井や船底天井、現在ではほとんど生産がされていない結霜ガラスや京都産の泰山タイルを使うなど、近代建築の髄を窺うことができます。

大正2（1913）年に建てられた写真②の左側の建物（主体部）では屋根がスレート葺き、ハーフティンバーで外壁が漆喰仕上げ、下段はスタッコ仕上げなど洋風建築の趣ですが、昭和9（1934）～1935）年に増築したと思われる写真②



写真②北側外観（主体部と玄関建物）

の右側の建物（玄関建物）は屋根が瓦葺き、土壁で仕上げるなど和風建築が取り入れられていることが分かります。このように和風建築を増築することで現在の建物の原型が造られています。平成28年には大屋根のスレートを葺き替える大修理が行われており、スペイン産の天然石を取り寄せて使用しています。そして令和7年度には耐震診断を行う予定です。

旧伊庭家住宅は保存修理を何度も行いながら、この先も地域の宝として後世に受け継がれていくことでしょう。

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和7年6月1日現在 ()は前月比

総数	81,753人	(- 19)
男	40,207人	(+ 5)
女	41,546人	(- 24)
世帯	36,268世帯	(+ 14)

※外国人住民(41か国・地域/2,320人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

